大阪市立自然史博物館

第25回特別展「都市の自然」

大阪市立自然史博物館では「日本列島の成立と生物相の起源・変遷」を総合的研究課題として，調査・研究活動を中心に据えた資料の収集保管・展示・普及活動を展開しています．日常の活動では，博物館の立地する地元大阪を起点として，近畿地方から日本列島の各地へ，さらに東アジアの近隣地域へと順次地域・視野を広げ，最後に再び現在の大阪に立ち返って考えるようにしています．

このような活動の中で，大阪市を中心とする都市域の自然についての豊富な試資料が蓄積されてきました．そこで今年は，高度に発達した大都市にはどのような自然があるのか知っていただくための，特別展を開催いたします．

赤道熱帯地域の高地に発達した都市は別として，日本列島のような中緯度地方や高緯度地方の大都市の多くは，海岸平野にあります．この海岸平野には埋積作用の担い手であった大きな河川が流入する例が多く，内陸部と外洋を結ぶ水運が発達しました．水都大阪はまさにこのような立地のもとで発達した交易都市です．一方では大洪水が多発し，生活を脅かしてきましたが，その結果として沖積平野には氾濫原，自然堤防，後背湿地，三日月湖など多様な環境が形成されました．しかしこの沖積低地は，土地の形成年代が新しく，地下には軟弱地盤層を擁しているという特質があります．

水はけの良い崖と乾燥しやすい段丘面から構成される台地は，大阪の場合にはきわめて発達が悪く，顕著なものといえば下末吉段丘に対比される上町台地くらいでしょう．

このような大阪の自然も，開拓されて農耕地となり，さらに大規模な都市空間へと著しく改変されて現在に至っています．高層ビルと舗装道路に覆われた大都市は，まさに岩石砂漠のような環境になっています．豊富な雨に恵まれた日本にありながら，雨水はすべて流失し，地下水脈の枯渇と酸欠空気の貯留，地表の乾燥化をもたらしています．また，気温の年較差・日較差も増幅して，生物たちにとってはきわめて厳しい環境になっています．一見平然として繁栄を続けているかのごとく見える，台所のゴキブリや街路樹のイチョウなど中生代からの「生きている化石」たちは，厳しい都市の自然環境の中でどの様に生き抜いているのでしょうか．外来種に席捲されているかのごとき，動植物の世界を通して，大都市の自然環境というものがどのようなものなのかを知り，人の生命を育むことのできる都市自然を創造するためにはどのようにしたらよいかを考えてみたいと思います．

写真　約1億年前のゴキブリの化石（ブラジル産，白亜紀）．

会　場：大阪市立自然史博物館　特別展示室
期　間：1998年8月1日（土）～10月11日（日）
　　午前9時30分～午後4時30分
　　（ただし入館は午後4時まで）．
休館日：毎週月曜日（休日の場合はその翌日），
　　毎月末日（土・日曜日・休日の場合は開館）．
入場料：大人500円，大学生・高校生400円，中学生以下無料，身体障害者なども無料
交　通：地下鉄御堂筋線「長居駅」下車（新大阪駅より28分，大阪駅より22分）．3番出口を出て公園の中を東へ徒歩800m．またはJR阪和線「長居駅」下車，東へ徒歩1,000m．
問い合わせ：大阪市立自然史博物館
　　〒546-0034
　　大阪市東住吉区長居公園 1-23
　　TEL. 06-697-6221（代表）
　　FAX. 06-697-6225
　　URL. http://www.mus-nh.city.osaka.jp/